

# 新年号

# 酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部長挨拶、女性会会長挨拶
- 5～6 ページ 東西南北（各支所）
- 7 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 8 ページ 部課だより（業務部）  
理事会だより、お知らせ、市場成績



MILK JAPAN





# 新年知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

私は、就任以来、「元気」なとちぎづくりに取り組むとともに、これまで培われてきた本県の魅力・実力を磨き上げ、積極的な発信に努めて参りました。

昨年を振り返りますと、1月15日を「いちご王国・栃木の日」と宣言し、戦略的なプロモーションを展開するとともに、4月から6

月までJＲグループと協働し、市町や関係機関、県民の皆様とオールとちぎで「本物の出会い栃木」ドステイネーションキャンペーン(DC)に取り組んだほか、夏には関西圏等における情報発信拠点として大阪センターを開所するなど、とちぎの魅力・実力を広く国内外にアピールして参りました。

さて、今年も、栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生1.5戦略」が最終年度を迎えることから、戦略の総仕上げを行うとともに、4年目となる栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に掲げる各プロジェクトの更なる推進を図ることとし、「とちぎの未来創生に向けた施策の推進」「安全・安心なとちぎづくり」

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、第77回国民体育大会『いちご一会とちぎ国体』と第22回全国障害者スポーツ大会『いちご一会とちぎ大会』に向けた着実な取組」の3点を重点事項として取り組み、本県の将来像である「人も地域も真に輝く魅力あふれる元気な『とちぎ』」づくりを一層進めて参ります。

農業分野においては、TPP11や日EU経済連携協定など国際貿易の枠組みが大きく変化する中、本県農業を成長産業として発展させていくには、本県の持つ強みを最大限に生かしながら、競争力の高い農業を実現していくことが必要であると考えております。

特に酪農については、畜産クラスター事業や畜産公共事業等を活用し、飼料基盤や畜舎、堆肥舎の整備、省力機械の導入などを支援し、生乳生産量全国第2位の本県酪農の生産基盤をさらに強化して

参ります。

こうした取組を着実に進めることで、活力と魅力あふれる『とちぎ』をつくり、皆様一人ひとりが、とちぎに暮らしていてよかったと思うとともに、ふるさと『とちぎ』に愛着と誇りを持っていただけるよう、全身全霊を傾けて取り組んで参りますので、皆様の一層の御理解、御支援をお願いいたします。

本年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって実り多き素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



## 新年の挨拶

青年部部長 山本 訓



新年明けましておめでとうござ  
います。皆様におかれましては、  
益々ご活躍のこととお慶び申し上  
げます。部員の皆様、組合役職員  
の皆様には青年部活動に対し、格  
段のご協力とご指導を賜り厚く御  
礼申し上げます。

さて昨年6月の青年部総会にお  
いて2期目の本部長に選出され、  
新体制が発足しました。新役員  
共々青年部活動に益々力を入れて  
いく所存であります。部員の皆様  
には本部事業へのご参加、ご協力  
をよろしく願います。

昨年は、日本各地で災害の多かつ  
た年でした。そんな中、7月に発

生した豪雨被害から2週間後、ま  
だ傷も癒えない中、広島で行われ  
た全国酪農青年女性酪農発表大会  
が開催されました。全国の酪友の  
素晴らしい経営や意見体験を聞く  
ことができ大変勉強になりました。

11月には保育園や小学校で搾乳  
体験を県内3箇所で行いました。  
実際に牛と触れ合って少しでも酪  
農を感じ、理解してもらおう場を創  
出し、酪農への理解醸成活動を今  
後も続けていきたいと考えており  
ます。

今年も2月に青年部研修会、3  
月には関東甲信越酪農青年女性会  
議酪農発表大会が茨城県水戸市で  
行われます。この大会では酪農と  
ちぎ青年部の青柳泰史さんが発表  
します。是非、皆で応援に行き、  
また各県から選出された優秀な発  
表者の様々な経営手法や意見体験  
などを聞き、私達の経営の糧とし  
ていきましょう。

最後になりましたが、本誌読者  
の益々のご発展とご多幸をご祈念  
申し上げます、新年の挨拶といたしま  
す。

## 新年の挨拶

女性会会長 小林 峰子



新年明けましておめでとうござ  
います。皆様におかれましては、  
健やかに新春を迎えられたことと  
お慶び申し上げます。女性会員の  
皆様、組合役職員の皆様には女性  
会活動に対しまして格別のご協力  
を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は台風24号、夏の猛暑と  
いった異常気象により、厳しい酪  
農経営を強いられた一年でありま  
した。しかし、私たち女性にとっ  
ては感動と勇気を貰った一年でも  
ありました。2月に開催された平  
昌オリンピックでは獲得メダル数  
のうち半数以上が女性であり、ま  
た9月に開催されたテニス全米  
オープン制覇を受け日本人選手に

よる初の四大大会優勝者となった  
大坂なおみ選手といった女性アス  
リートたちの活躍です。

私たち酪農とちぎ女性会も新体  
制で出発をし、牛乳・乳製品の消  
費PR活動に意欲的に取り組むと  
ともに、県内外の酪友たちとの交  
流を図ってまいりました。10月13  
日栃木県酪農フェアでは県内産10  
種類の牛乳飲み比べ（栃木県酪青  
女に協力）を行い、11月27日には  
関東甲信越酪農青年女性会議研修  
会にて他県の酪友と交流しました。

また、12月4日にはホテルエビ  
ナール那須において女性会全体研  
修会を開催いたしました。講師に  
（株）升智の代表取締役社長 布瀬智  
子氏をお迎えし、「栃木から全国へ  
ジェラートを通して笑顔と感動をお  
届けします！」と題して講演頂き、  
芯の強さとブレない心を持つことが  
女性を輝かせることだと学び、と  
ても有意義な研修会となりました。  
本年も昨年同様、女性会活動に  
対しまして、皆様のご支援ご協力を  
賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々  
のご発展とご多幸をご祈念申し上  
げ新年のご挨拶といたします。



## 那須高原支所

支所活動推進協議会講演会開催



講師：龍前直紀氏  
日、那須高原支所において組合員及び関係者

70名が参加して、北海道標茶町(株)TACSしべちや取締役場長 龍前直紀氏を迎え「(株)TACSしべちやの設立背景とその取り組み」と題し、支所活動推進協議会(藤田一義会長)主催による講演会が開催されました。

初めに北海道標茶町の概要から説明があり、釧路湿原の約65%は標茶町で、酪農が主産業であり、一部では「ほくげん大根」と言うブランド野菜を栽培しているそうです。標茶町の昭和50年からの酪農家戸数の推移を見ると754戸から、平成27年では329戸に減少しており毎年10戸程の離農がある状況です。

この状況から標茶町とJAしべちや及び雪印種苗(株)が互いに手

を組んで農業生産高の維持向上と農業の担い手の育成を行うため「農業生産法人(株)TACSしべちや」を、平成25年11月に会社設立しました。なお、TACSとは、Town(標茶町)・Agricultural Cooperative(標茶町農業協同組合)・Snow Brand Seed(雪印種苗)の頭文字を合わせたのが由来です。平成27年4月より搾乳を開始しましたが、標茶町では体細胞数の結果が毎日全戸通知されるため、始めは乳質向上に特に尽力され、現在は平均7万前後となっております。また、飼料給与の面では、営業開始時はあえてTMR濃度を低めに抑えて牛に負荷を掛けず腹作りから始め、自然に乳量が伸びてきたところでTMR濃度も乳量に合わせ少しずつ調整し、現在平均乳量は33kgに達しています。

設立目的の一つに、「草地資源の最大活用を目指し、自給飼料を中心とした低コスト経営の実現」があります。その実現に向けて先ず取り掛かったのは、草地の再生です。雑草・裸地が圃場の半分以上あった所に、再生力の強いオーチャードとペレニアアルライグラスをそれぞれ10kg/ha追播し、定期的に除草剤散布をして草地管理を行い、次に播き返しを行い、草地

を完全更新しました。さらに、こういった一連の作業についての研修会や、導入機械を用いたデモンストラを行うことで、地域へ技術発信し、地域酪農の生産基盤の維持・発展に寄与しています。

次に、設立の目的として重要だったのが、担い手の支援・育成です。その目的を果たす為にTACS標茶では、従業員その他に研修生を受け入れており、従業員トレーナーとして、研修生の技術向上を計っています。そして、早ければ2年目には就農のサポートセンターを通して酪農ヘルパーなど他の現場を経験出来、その後就農先を見つけていく流れが確立されています。また、TACS標茶の調べでは、新規就農希望者の約9割が放牧型酪農をやりたいという希望があ



講演風景

り、新たな取組として、放牧形態型研修農場「Grazing TACS」の営業開始を平成31年7月に予定しています。

龍前氏自身も意外だった事として、東京や神奈川などの都市部出身の研修生が多く、この背景には、東京近郊の酪農体験などを通じた理解醸成活動が、若者が酪農に興味を持つきっかけになる、重要な役割を担っている様です。酪農とちぎにおいても、既に実施している搾乳体験や牛乳消費拡大活動が、今後継続実施されることが重要であると再認識させられる内容でした。

講演会後の質疑応答においても参加者から盛んに質問がされ、有意義な講演会となりました。来年も多数のご参加をお待ちしております。

## 宇都宮支所

### 各青年部で恒例の搾乳体験

本年度も、関東生乳販連所有の搾乳体験車により行いました。

先ず、那須南支部では11月20日に、青年部員9名補助のもと、那須烏山市立烏山小学校で実施し、2年生69名が体験されました。

当日は、初めて牛に触れる児童も多く、牛の大きさや生乳の温かさに驚いていました。また、搾乳体験



と併せバター作り体験が行われ、2人1組で協力しながら作りました。途中疲れながらも、最終的には全員が完成し、達成した喜びを感じた事と思います。

次に、塩谷支部では11月21日に、矢板市のこどもの森こころ保育園で実施し、年長さん37名が体験されました。搾乳補助は、宇河今市支部員の協力を得ながら7名の青年部員が対応し、園児たちは大喜びで牛に触れ、乳搾りを楽しみました。

同保育園は今年で5年目となりますが、今後も継続していく予定です。



山本支部長より園児に搾乳方法を説明

以上、各青年部活動により、酪農の理解を深める事が出来ました。

### 高根沢酪農部会で視察研修

11月26日に、高根沢酪農部会で荒井康夫部会長はじめ9名参加のもと、那須塩原市の「全酪連那須

青木TMRセンター」と、「小針結城牧場」を視察しました。

先ず、全酪連那須青木TMRセンターでは、施設や機械をはじめ製品等の説明を受けた後、製造現場を見学しました。部会員の中にはTMRを給与している方もおり、実際に原料や製造工程を確認することが出来ました。

次に、小針結城牧場を視察しました。当牧場では、乳牛107頭（うち経産牛71頭）を飼養され、牛舎形態は経産牛が繋ぎ牛舎、育成牛がフリーバーン牛舎です。また、和牛繁殖雌牛7頭・和牛育成牛17頭を飼養しており、労働力は結城氏ご夫妻とご両親・従業員1名の5名です。飼養管理面では、乳質向上に重点を置き、特に細胞数の低減に力を入れています。取



小針結城氏より部会員に牧場概要を説明

組みとしては、カウコンフォートを意識した牛舎環境の改善をはじめ、牛群検定成績の活用や良質自給飼料の給与など、きめ細やかな管理により、衛生的で高品質な牛乳生産を実現されております。部会員の方は、綺麗に清掃された牛舎に感銘を受けながら、積極的に情報交換されていました。

最後に、参加された方々は視察研修を通し、見聞を広められたと共に、経営向上の一助に繋がった事と思えます。

## 県南支所

### 女性会河内南部・

#### 下都賀支部秋季研修会を開催

11月1日、女性会河内南部・下都賀支部（坂本三枝子支部長）では10名の参加者で北関東の小京都といわれる笠間市に行ってきました。第1の目的である「笠間工芸の丘」に到着し笠間焼の手びねりを体験しました。1キロの粘土を受け取り1時間ほどで個性あふれる作品が生まれました。以前、研修会で行った益子焼の体験も大いに役に立ったようです。出来上がった作品は「じく掛け」と「本焼き」の工程を経て2か月後手元に届く予定です。当日はイベントが催され



女性会河内南部・下都賀各支部の皆さん



憩いのひととき…



笠間焼の手びねり体験

できました。

また、午後は笠間日動美術館の別館である春風萬里荘を見学しました。かつての北大路魯山人の住居を北鎌倉から移築した建築物の中にはたくさん絵画や彫刻が展示され日常では味わえない芸術品に魯山人が偲ばれました。併設された茶室で抹茶を頂き、会話も弾み「憩いのひと時を過ごし部員同士の懇親がさらに深まった研修会となりました。



# 部課だより

## 生乳受託課

平成30年11月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し99・2%（1万8541t）と前年比ベースでは回復傾向にありますが、日量ベースでは618tと9月以降同水準で推移し、17ヶ月連続前年を下回る状況です。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2168t（前年比99・0%）、宇都宮支所2354t（同100・4%）、県南支所4020t（同99・2%）となり、出荷者数は、前年同月より16戸減の409戸（内、学校は1校）でした。11月度の組合平均乳質は、脂肪率3・82%（前年差▲0・06%）、無脂固形分率8・81%（同▲0・02%）、体細胞数21・36万（同+0・52万）と各乳質とも前年同月を若干下回る結果となりました。

関東生乳販連の11月総受託乳量は8万3628t（前年比97・4%）となり、本組合同様17ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

用途別の販売数量は、飲用牛乳向けは受託乳量前年比並みの98・1%、加工向けは前年比89・7%、

平成30年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

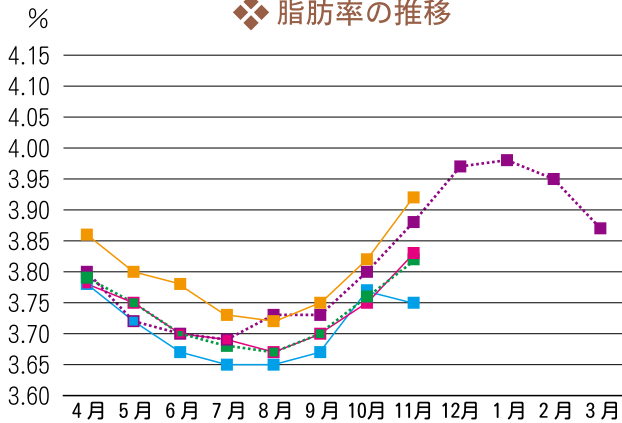
用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	66,920,439	68,249,400	98.1	551,654,756	560,246,068	98.5
（うち学校向け）	12,423,258	12,103,853	102.6	79,440,284	80,764,383	98.4
はっ酵乳向け	11,853,934	12,135,937	97.7	100,836,680	105,307,698	95.8
特定乳製品向け	3,524,497	3,930,842	89.7	41,440,421	47,722,692	86.8
（うち委託加工向け）	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,263,837	1,450,852	87.1	11,131,274	12,199,785	91.2
チーズ向け	65,374	63,086	103.6	533,290	496,769	107.4
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	83,628,081	85,830,117	97.4	705,596,421	725,973,012	97.2
加工比率	4.21	4.58	-	5.87	6.57	-

生クリーム向けは87・1%と減少しました。

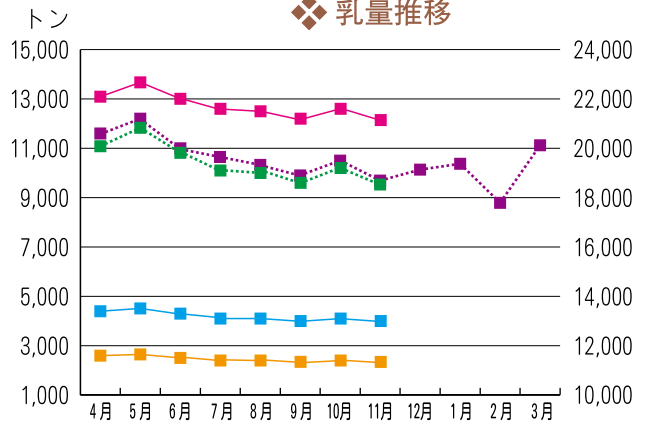
11月の全国の生産量は、北海道が前年比101・0%と北海道胆振東部地震以降10月に続き2ヶ月連続し前年を上回りましたが、都府県は97・5%と3ヶ月連続前年を下回り、全国の生産量は99・4%と3ヶ月連続で前年を下回りました。

尚、平成30年11月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

◆ 脂肪率の推移

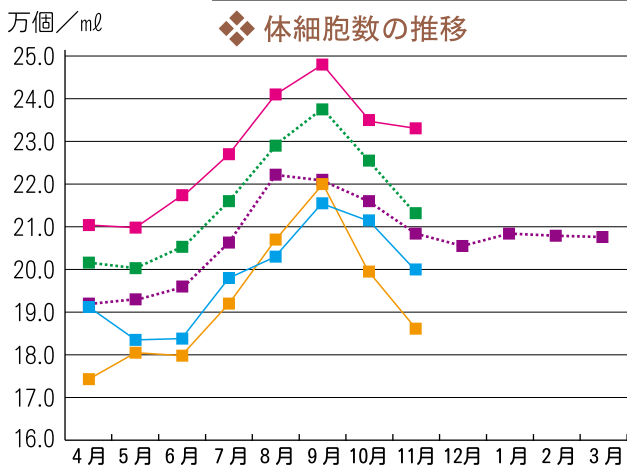


◆ 乳量推移

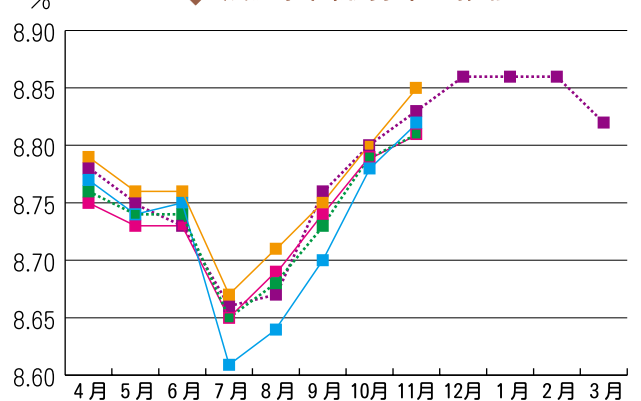


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 平成30年度 ■ 平成29年度

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



2年に一度開催されている第19回関東地区ホルスタイン共進会が、11月20日(火)、21日(水)の2日間、群馬県畜産試験場(前橋市)において開催されました。審査員にカナダよりカール・ソーシエ氏(シームックスアライアンス社)を迎えて、関東1都6県から選抜された未経産牛38頭、経産牛59頭の合計97頭(本県出品は未経産牛6頭、経産牛10頭)で、日ごろの改良の成果を競い合いました。厳正なる審査の結果、本県から第7部(経産牛36頭、42ヶ月齢)和泉正行さん出品のプロスペリティーS O プラネットパー号が優等賞2席を獲得、第8部(経産牛42ヶ月齢)和泉泰さん出品のリージェントモーガンブレンダ号が優等賞1席を獲得され準名誉賞(リザーブインタミディエイトチャンピオン)に輝きました。本県出品牛の審査結果は表のとおりです。



表彰者

第19回 関東地区ホルスタイン共進会入賞牛一覧

区分	出品区分	名号	出品者		入賞結果
			住所	氏名	
未経産牛	第1部	コバリ アシユリンス ファニング ドアマン	那須塩原市	小針 勤	2等賞5席
	第2部	ブラントツリー カウンティアー ダーハム	鹿沼市	栃木県立鹿沼南高等学校	2等賞2席
		タクヨウ フィーバー ワーデン ベニー	那須塩原市	栃木県立那須拓陽高等学校	1等賞3席
	第3部	タクヨウ キャシー クラツシユー	那須塩原市	栃木県立那須拓陽高等学校	1等賞1席
ヒロファーム テンブトレス ムーア		鹿沼市	栃木県立鹿沼南高等学校	1等賞2席	
第4部	TND コハル ハスキー ウミ	宇都宮市	栃木県農業大学校	2等賞2席	
経産牛	第5部	LWL ポートレイト AW マツカチエン ET	那須塩原市	永森 啓太	1等賞2席
	第6部	MM インテグ スパーク	那須烏山市	松井 光	2等賞1席
		ハーネスファーム ローソリテイ スキー ET	那須塩原市	高塩 浩典	1等賞2席
	第7部	パインツリー アルタカリバー ルドルフ	那須烏山市	中山 真介	2等賞3席
		プロスペリティー SO プラネットパー	那須塩原市	和泉 正行	優等賞2席
	第8部	ウイングバレー カリバー アポロ	日光市	鷹箸 仁美	2等賞1席
		リージェント モーガン ブレンダ	那須塩原市	和泉 泰	準名誉賞・優等賞1席
	第9部	プロスペリティー フィーバー リー	那須塩原市	和泉 正行	1等賞3席
	第10部	コージー アイズレー チャンプ	市貝町	コージーファーム株式会社	1等賞4席
		コバリ セジス アレキササンダー ショツカー	那須塩原市	小針 勤	1等賞3席

理事会だより

11月度理事会(11月30日)

報告事項

- (一) 組合員の加入について
  - (二) 業務経過報告について
  - (三) 組合資金貸付について
  - (四) 組合プール乳価について
  - (五) 公社営事業(ふれあい牧場)の進捗状況について
  - (六) 関東生乳販連情報について
- 協議事項
- (一) 10月度事業実績について
  - (二) 乳価安定特別積立金の活用について
  - (三) 平成30年度配合飼料特別奨励措置について
  - (四) 平成30年度組合購買利用推進女性研修会の実施について
  - (五) 年末手当の支給について

お知らせ

《組合員加入のご案内》

酪農とちぎは、組合員の皆様の方と出資金により運営されております。一口一〇〇〇円の出資から加入可能です。酪農に従事されているご家族の方等の加入を是非ご検討ください。皆様のご加入をお待ち申し上げます。

11月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位:千円(税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	11月1日	298	245	82.2%	863	33	26	1,021
十勝	11月6日	573	445	77.7%	907	97	72	1,118
豊根	11月15日	341	193	56.6%	816	5	1	810
根室	11月19日	471	393	83.4%	861	37	35	1,068
釧路	11月20日	306	186	60.8%	844	12	7	1,043
北見	11月21日	426	297	69.7%	809	9	7	960
十勝	11月28日	733	491	67.0%	850	114	61	1,064
合計		3,148	2,250	71.5%	850	307	209	1,012
前月		2,168	1,662	76.7%	902	235	186	1,108
前年同月		3,008	2,070	68.8%	829	312	213	965

初妊牛の今後の動向は3~4月分娩が中心となります。例年春産み腹の引き合いは道内外で強く、価格は上昇傾向(昨年12月→2月間で159千円の価格上昇)となるのが通常ですが、今年は道内の育成牛・初妊牛資源が増加傾向にあり、上場頭数が例年より多くなる傾向が見えてとれ、この影響により価格の上昇幅は例年より落ち着いた形になるものと思われ、導入を希望される方は腹条件・分娩月によって手配に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績 (単位:円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(11/30)	ホルス雄	125	63	207,360	8,210	148,294	12,692
	F 1雄	114	64	396,360	66,960	313,127	13,001
	F 1雌	102	57	300,240	64,800	230,072	13,352
館林(11/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	0
	F 1雄	13	97	389,880	286,200	336,379	▲23,801
	F 1雌	7	92	329,400	240,840	284,657	7,961

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、全体的にやや強含みで推移しています。6月からゆるやかな下降を続けていた相場は、11月に持ち直しの動きを見せています。例年1~2月は全体的に相場が下がる傾向にあるものの、昨年と比較し今年の年末は高値で推移しているため、今後概ね横ばいで推移するものと思われ、

